

早稲田大学環境総合研究センター・ふくしま広野未来創造リサーチセンター
第 15 回運営会議
議事録

日時：2019 年 10 月 18 日（金）15:10～18:10

会場：福島県広野町旧広野幼稚園

記録：朱 鉦

出席者（敬称略）

松岡 俊二	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授
阿部 加奈子	福島県広野町復興企画課・主任主査
紺野 美王	経済産業省
根本 賢仁	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・理事長
磯辺 吉彦	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・事務局長
松本 昌弘	福島県楢葉町建設課都市計画係・主任主査
山岸 清之進	プロジェクト FUKUSHIMA!・代表（Skype 参加）
富山 明子	プロジェクト FUKUSHIMA!・理事
アサノ コウタ	プロジェクト FUKUSHIMA!
安部 良	安部良アトリエー級建築士事務所、明治大学理工学部建築学科兼任 講師（Skype 参加）
永井 祐二	早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授

事務局

李 洸昊	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・助教
中野 健太郎	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士後期課程
朱 鉦	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士後期課程

議題 1 イノベ推進機構・復興知・重点枠への申請について

- ・福島イノベ推進機構による 2019 年度学術研究活動支援事業（重点枠）の採択結果が公表された。採択された大学は以下の 3 大学であり、採択総額は 6 千万円である。
 - ① 東京大学
事業名：福島復興知学の構築・展開・加速事業
 - ② 長崎大学
事業名：災害・被災者医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業
 - ③ 福島大学
事業名：福島発「復興知」の総合化による食と農の教育研究拠点の構築
- ・早稲田大学は残念ながら不採択であったが、社会的な観点から福島復興を研究することが重要であるため、来年度の学術研究活動支援事業に申請する。

議題 2 中小企業庁・ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業の申請について

(1) 事業計画

- 事業名称：ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業
- 申請主体：NPO 団体広野わいわいプロジェクト
- 助成金額：1,000 万円
- 事業実施期間：2019 年 10 月 18 日（交付決定日）～2020 年 3 月 31 日
- 事業内容：①大風呂敷盆踊りイベント
「フェスティバル FUKUSHIMA! in 広野」
②アートコミュニケーション企画
気流部「時の封～ひろの 2120」
③来訪者へのアンケート調査

(2) 10/27 の「フェスティバル FUKUSHIMA! in 広野」と「時の封～ひろの 2120」第 1 回ワークショップの開催中止について

- ・台風 19 号の影響により、福島県浜通り地域において、いわき市や相馬地方をはじめ、広域な浸水被害や断水が発生した。広野町では大きな被害はないが、周辺市町村の被災状況を鑑み、災害復旧支援を優先すべきであると判断し、10 月中に広野町が主催として開催予定のイベントは中止としている。本事業も協力団体として広野町が入っており、広野町としては町主催行事に準じた対応をして欲しいとの提案があった。
- ・主催団体の NPO 法人広野わいわいプロジェクトとしては、本事業でも連携する団体、個人も被災しており、近隣自治体の復旧支援に専念する必要があると考えており、今の状況ではイベントの準備を進めることは難しいと考えている。また、本事業の事業名に示されている「浜通り」を考慮すると、広野町が無事であれば良いと言うことでは、趣旨が違って来る。今は、浜通り地域の緊急対応支援を優先すべきであると認識している。
- ・共催団体のプロジェクト FUKUSHIMA!と早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターは、広野町や地元の意見を尊重し、10 月 27 日のイベント開催は困難であることに合意した。
- ・今日の議論を踏まえ、10 月 27 日に開催予定の「フェスティバル FUKUSHIMA! in 広野」と「時の封～ひろの 2120」第 1 回ワークショップは中止することにし、いわき市を含む周辺自治体の災害復旧支援へシフトすることに合意した。なお、プロジェクト FUKUSHIMA!の大風呂敷制作ワークショップも本日（10 月 18 日）をもって中止することにした。

(3) 開催中止への対応について

- ・これから中小企業庁に事業計画の変更とその理由を報告し、承認をもらう予定である。本事業の構成内容を改めて検討し、盆踊りに拘らず多くの可能性を視野に入れつつ、浜通り地域で広域連携を実現できるようなイベントを企画する。
- ・イベントスタッフ等への連絡や宿泊・交通機関・レンタル会社等のキャンセルの対応を早速開始する。
- ・すでに制作された大風呂敷は、NPO 法人広野わいわいプロジェクトが保管しておく。来年の 1 月 26 日に開催予定の第 5 回ふくしま学（楽）会などの機会に、大風呂敷の活用の可能性についても検討する。今後の進め方については、近隣の檜葉町なども含め、地元と一緒に検討していく。

議題 3 第 4 回ふくしま学（楽）会の開催報告について

- ・第 4 回ふくしま学（楽）会はこれまでの学会と比べ、参加者が主体となる対話の場と時間を確保したことは評価できる。ただ、分科会の議論を取りまとめる総合討論では、何か具体的な次のステップの提示には至らなかった。特に、ファシリテーターのミッションやテーマ設定が重要であるが、その調

整がうまくできなかったため、次回には改善したい。

- ・これまでのふくしま学（楽）会は基本的に広野町と檜葉町で開催してきた。次回もまた檜葉町で開催する予定となっている。広域連携の観点から別の町村でも開催することが望ましいが、避難指示解除やインフラ復旧の現状を考えると、広野町と檜葉町で開催することが現実的である。
- ・第4回ふくしま学（楽）会の経験を踏まえ、時間管理を徹底すれば、開催日程を1日に集約できると考えられる。
- ・第4回ふくしま学（楽）会は1F 廃炉の先、地域アート、地域経営という3つのテーマに分け、テーマごとに内容の充実した議論ができたが、明確な方向性を絞りきれなかった。次回は地域活動の要素と結合させたテーマや議論内容を考えたい。
- ・来年度の最終年度に向け、地域の将来像を展望できるテーマを設定したい。
- ・多様な参加者の確保および交流人口の増加には工夫が必要である。学生向けのエクスカージョンを含め、より多くの住民が参加しやすい事前イベントやワークショップなどを開催したいと考えている。また、学会当日のプログラムに何か新しい形のイベントを設置することも可能であると考えられる。

議題4 広島平和式典・瀬戸内海国際芸術祭（豊島）視察について

- ・8月6日の広島平和式典に、早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターとNPO法人広野わいわいプロジェクトのメンバーが参加し、その後原爆記念館も視察した。負の歴史と記憶を式典、遺跡、アーカイブ施設などで未来世代に伝承していくという広島の経験は、福島にも有益な示唆を与えてくれると考えられる。
- ・8月7日から8月9日までには、広野町役場のメンバーも加え、瀬戸内海国際芸術祭の開催地の1つでもある豊島視察を行った。また、豊島産業廃棄物の不法投棄場所や産業廃棄物問題資料館の視察も行った。特に、豊島産業廃棄物問題の歴史について現地の語り部の方からいろいろ話を聞くことができた。豊島の経験から、現代アートによる地域再生のあり方やどのように産業廃棄物問題を未来世代に伝えていくかについて学ぶことができた。

議題5 環境経済・政策学会 2019 大会（9/28～9/29）

- ・早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターは、今回の大会で「福島復興知を考える：原子力災害からの地域再生と社会イノベーション」という企画セッションを開催した。
- ・本企画セッションでは、生態学（森林生態学）、工学（環境システム学）、社会科学（環境経済・政策学）という3名の異なる学問領域の専門家から、国際的研究動向も踏まえつつ、福島復興知について議論を行った。特に、福島復興に取り組んできた経験から得られた専門知と非専門知との関係や福島における復興知のあり方について報告が行われた。その上で、討論者や参加者を含め、福島復興（地域社会）と学術研究（大学・研究機関・研究者）との関係について議論を行った。

議題6 1F 廃炉の先研究会について

- ・10月11日に早稲田大学にて、第2回1F 廃炉の先研究会が開催された。日本原子力学会廃炉検討委員長の宮野先生より、現在原子力学会が行っている廃炉の先（end-state）の検討状況について報告が行われた。報告からは、廃炉で発生する放射性廃棄物の処理や中間貯蔵などの多くの課題が提示された。さらに、廃炉の実施体制の構築がまだ不十分な状況にあることが指摘された。
- ・日本原子力学会の技術的な観点からの検討に対し、本研究会は引き続き社会科学の側面に着目しながら議論を進め、日本原子力学会の技術的観点も含めながら総合的な検討を行っていききたい。
- ・次回は12月20日に開催する予定であり、1月頃には浜通り地域で意見交換会を実施したいと考えてい

る。

議題 7 ふくしま浜通り文化育成と情報発信ワーキンググループ(WG)会合について

- ・10月7日に早稲田大学で第2回ふくしま浜通り文化育成と情報発信WG会合を開催した。WGでは、アーティストのヴィヴィアン佐藤さんから青森県七戸町で実施した地域アートによる地域再生プロジェクトの事例を報告していただいた。
- ・WGメンバーは報告内容を踏まえ、福島県浜通り地域が抱えている諸課題の解決に向け、これまで軽視されてきた地域固有の魅力や価値を見出すという地域アートの役割と意義を検討した。WGメンバーは1F 廃炉の先を見据えながら、浜通り地域における地域アートの広域的な展開の重要性・必要性についての認識を共有した。
- ・次回のWGは11月か12月に、次々回は来年の1月に開催する予定である。また、福島県浜通り（広野町）におけるWGの開催も検討することとした。

議題 8 ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI 構想)について

- ・社会イノベーション・イニシアティブ構想(SI 構想)の第3の柱である広域DMOの創設は、まだ検討体制が整っていない。今後、次回の第5回ふくしま学(楽)会の開催地である檜葉町のまちづくり会社との連携も視野に入れつつ、可能であれば、次回のふくしま学(楽)会開催までに第3の柱の活動体制を構築したい。

議題 9 国際教育研究拠点構想について

- ・福島イノベ構想の一環としての国際教育研究拠点構想が11月末に中間案を取りまとめる予定となっている。しかし、それに関連する有識者会議が非公開であり、地元との関わりも少ないため、構想の具体的な内容が不明である。今後、もう少し具体的な情報・動きを把握する必要がある。

今後の日程

10/17(日) 13:30	第9回TURNミーティング@東京藝術大学
11月中下旬~12月中	第3回ふくしま浜通り文化育成と情報発信WG(広野町(予))
12/20(金) 18:00	第3回1F 廃炉の先研究会

2020年

1月中下旬	第4回ふくしま浜通り文化育成と情報発信WG(最終回)
1/15(水) 18:00	第4回1F 廃炉の先研究会
1/26(日)	第5回ふくしま学(楽)会(檜葉町みんなの交流館ならはCANvas(予))
3/7(土)	第9回原子力政策・福島復興シンポジウム(早稲田大学)
4月 or 5月	第5回1F 廃炉の先研究会
6月 or 7月	第6回1F 廃炉の先研究会(最終回予定)

以上